

沢村貞子著「私の浅草」を読む

- エッセイを読んでみよう -

「味噌汁」

浅草の路地の朝は、味噌汁のかおりで明けた。

となり同士、庇と庇がかさなりあっているようなせまい横丁の、あけっ放しの台所から、おこうこをきざむ音、茶碗をならべる音、寝呆けてなかなか起きない子を叱る声、- その中をくぐり抜けてくるご飯のおこげの香り、そして、それをみんな包むように、ふんわりと、味噌汁の匂いがただよってくる。

おとなりはお豆腐、お向いはわかめか大根かも知れない。私は、おからに油揚げとねぎを入れた味噌汁が大好きだった。

沢村貞子著 「私の浅草」 暮しの手帖社 1996年10月4日発行

- 2006年9月7日記 -